

第一朗読（雅歌3章1―4a節）

- 1 夜ごと、ふしどに恋い慕う人を求めても
求めても、見つかりません。
- 2 起き出して町をめぐり
通りや広場をめぐって
恋い慕う人を求めよう。
- 求めても、あの人は見つかりません。
- 3 わたしが町をめぐる夜警に見つかりました。
「わたしの恋い慕う人を見かけましたか。」
- 4 彼らに別れるとすぐに
恋い慕う人が見つかりました。

福音（ヨハネ20章1―2・11―18節）

1 週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行
た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。2 そこで、シモン・
ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のと
ころへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。ど

こに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」

11 マリアは墓の外に立つて泣いていた。泣きながら身をかめて墓の中
を見ると、12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天
使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。13 天使
たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わ
たしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分
かりません。」14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立つてお
られるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。15 イ
エスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているの
か。」マリアは、園丁だと思つて言った。「あなたがあの方を運び去った
のでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引
き取ります。」16 イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、
ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。17 イエ
スは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っ
ていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。
『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、
あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」18 マグダラの
マリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、
また、主から言われたことを伝えた。

朗読から祈りへ

—求めても—

恋い慕う人を求めても見つからない。雅歌は「若い男女の恋愛を歌う詩」。しかし、この書き物は「聖なる書」。寓喩的に読まれるとき、聖なる書となる。神と人との関係、神と教会との関係、キリストと教会との関係を読み込むとき「聖なる書」となる。

恋い慕う男女。愛する人を求める強い思い。当然なこと。人はそのように創られている。人は求め合う存在。見つからない悲しみ。あせり。求める強い望み。人は生涯、「相手」を求める。それが、それだけが、人生の目的のように思われている。だから、その「相手」が見つからないとき、不幸だと思ってしまう。「相手」は人だけではない。人は神に似せて創られた。人は神を求める。求めても見つからない。呼び求めても、答えてくれない。しかし、「相手」は一人。その「相手」は一人のものではない。その「相手」はすべての人の「相手」となる方。その方は姿を変えてわたしたちの前に現れる。その方は真であり、

善であり、美である。それを求めるとき、わたしたちは神と出会うことができる。求め続けること。そうすれば、「相手」も自分を求めていることに気づくだろう。そのとき、心から喜ぶことができる。

—捜しても—

マグダラのマリヤ。イエスが葬られた墓にやつてくる。墓は空。見えるものは邪魔をする。それは時と空間を越えて存在するものを見えなくする。

マリヤもペトロも、そして「もう一人の弟子」も墓にこだわる。イエスがいるはずの墓に。マリヤは墓の外に立つて泣く。マリヤは身をかめて墓の中をのぞく。イエスはいない。どこに置かれているのか、分らない。マリヤはうしろを振り返る。イエスが立っている。しかし、マリヤはそれがイエスだとは分らない。墓の外にいたとは思わない。イエスはマリヤにたずねる。「なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤはイエスを園の番人だと思って、イエスをどこに置いたのか尋ねる。イエスは「マリヤ」と言う。マリヤと呼んだイエスの声がマリヤの存在の奥底まで響く。マリヤは再び振り返る。

そこで初めてイエスだと気づく。マリヤは「ラボ二」とイエスに答える。「先生、導師、導き手」という意味。マリヤはこの人がいないと生きていけない。ときに先に立ち、ときに共に歩んでくださる方。ときに共に身をかめてくださる方。マリヤはイエスにすがりつく。

見えるものは邪魔をする。それは時と空間を越えて存在するものを見えなくする。墓、イエスの体（遺体）がないのはいいこと。見えるものが無いことはいいこと。無いからこそ有ることに気づく。

イエスと出会い、イエスを見たマリヤ。マリヤは弟子たちに言う。「わたしは主を見ました」。マリヤはもうイエスを捜さない。どこにでもイエスを見ることができるようから。

イエスに出会わせ、イエスを見せてくれた人々がいる。脳性まひの子、未熟児網膜症の子、ホームレスの方、癌を宣告された方、中絶で悩んでいる方、離婚した方、不登校の子、身体的に障がいのある方、鬱の方、高齢の方、病気の方、痴呆の方、子どもを失った方、自死を望んでいる方、極貧の子どもたち、極限まで落ち込んだ方…。

復活した主は、一人ひとりの中にいてくださる。それが見えない。見えないように邪魔をしているのは何だろう。（M・M・Y）